梅田　利和（うめだ　としかず）議員　一括質問

小松空港の将来展望

◆第2滑走路の実現に向けて

Q　第2滑走路実現に向けた市長の思いは。

A　小松空港は、自衛隊と民間空港との共用飛行場として昭和36年に開港してから60年が経過し、国内有数の乗降客数と国際貨物取扱高を誇る北陸の空の玄関口として、本市はもちろん、広域エリアの重要な都市機能となっている。

2024年春の北陸新幹線小松駅開業後には、空港と新幹線が近接する全国的にも希有な立地となるため、人、モノ、文化の交流を拡大させる空港機能向上と発展については、小松市、石川県のみならず、北陸地域の成長に欠かせない条件であり、本市としても必ず取り組まなければならないと考えている。

第2滑走路については、自民党小松支部や小松商工会議所からも増設や整備に向けた調査の要望を受けており、今後、小松空港中期ビジョン策定検討委員会において具体的な議論が進められることとなっている。市の立場として、空港の将来と発展について、前向きに議論していきたいと考えている。

◆北陸エアターミナルビルの建て替えについて

Q　基本的な空港機能のほかに、どのような付加価値を上乗せすればよいと考えるか。

A　現在のターミナルビルは、昭和56年に供用開始されて以降、必要に応じて増改築されてきたが、築40年が経過しており、施設の老朽化が進んでいる。

空港はコロナ禍前の平成30年には、国内線、国際線合わせて180万人が利用する大きなマーケットであり、情報発信のみならずビジネスなど市の成長を目指す上で大きなポテンシャルを有している。

空港機能については、通関手続や出入国管理業務、検疫などのCIQ体制の強化・充実はもちろん、ショッピングや飲食、コワーキングなど市内外の人々が気軽に立ち寄り滞在してもらえるような都市機能の充実がエアターミナルビルの付加価値を高めることになると考えている。

宮川　吉男（みやかわ　よしお）議員　一括質問

通学路の安全で安心の対策を、早急に構築を

◆児童生徒通学路の安全対策について

Q　昨年9月、トラックの歩道橋への接触事故により、歩道橋が破損し、11月に撤去された。いまだに復旧されていないが、平面交差点の横断歩道橋の復旧はいつ頃の予定か。

A　現在、事故当事者と保険会社で協議中であり、管理者の県は早期復旧を要請している。復旧の時期は未定となっている。

国道305号平面交差点横断歩道早期復旧を

Q　国道305号と小松新橋付近の古いアンダー横断歩道は、自転車接触など人身事故が多く発生している。改善改修の環境整備の見直しは。

A　アンダー横断歩道の拡幅などはハード的に難しく、環境整備については管理者の県に要望する。

Q　島田町JR踏切手前に生徒の一時待機場所の設置の考えは。

自転車通学者が停車中の自動車と接触事故が発生する危険性がある。安全対策は。

A　排水路の蓋がけや待機スペースの確保を検討。生徒の安全安心な通学路の整備を行っていく。

Q　国も通学路の安全確保を推進しているが、本市の対策は。

A　小松市の通学路交通安全プログラムによる合同点検等を実施している。

◆カーボンニュートラル及びSDGsのさらなる前進を

Q　未来の子供たちのため脱炭素に取り組む必要がある。下水道事業では、小松マテーレの技術により、廃棄物や汚泥の処理の成果が報告された。汚泥減容技術の実験導入の経緯、結果、他の農業集落排水施設に導入など今後の展開は。

A　小松マテーレ様から、開発した技術を下水道に応用する提案があった。導入期間中の余剰汚泥の発生及び、処分の際のCO_2排出量はゼロとなった。今年度は、異なる処理方式を含め3施設程度の導入を検討中。

橋本 米子（はしもと よねこ）議員 一括質問

新型コロナウイルス禍・原油価格・物価高騰から地域経済と市民生活を守る対策について

◆農業従事者への支援について

Q 小松市の小麦生産の現状を問う。

A 令和3年は栽培面積52ha、生産量144トンで、県内で一番の小麦産地となっている。

学校給食に安全な国産小麦を

Q 学校給食に安全な国産小麦を使う方向性についてどう考えるのか。

A 県内小中学校の給食のパンは、4月から全て、国産小麦を使用している。

Q イノシシ等被害対策として捕獲おりの増設はできないか。

A 増設希望があったところは対応している。

◆ごみ減量化・リサイクル率向上に向けた制度見直しについて

Q 可燃ごみ量のリバウンド傾向の理由をどう考えるのか。

A 指定袋導入からの時間経過により袋購入に対する抵抗感が薄れたことが考えられる。

Q ごみ袋を購入した家庭と買わなくてもよかった家庭の比率は。

A 約半数の世帯は無償配布分で足りており、残り半数の世帯は無償配布分の約2倍弱のごみ袋を購入していると推測される。

Q 指定袋無償配布の廃止の見直しに伴い、指定袋の低単価を求める。

A デザインなどの規格変更を予定しており、環境審議会に諮った上で決定したい。

◆看護師・保育士・放課後児童支援員等の処遇改善について

Q ケア労働者への処遇改善の実施についてどう対応されたのか。

A 令和3年度処遇改善の実績は、市民病院206万円、公立こども園等92万円、私立認定こども園等2、027万円、放課後児童クラブ160万円。

Q 今後、10月以降の実施はどう取り組まれるのか。

A 認定こども園・放課後児童クラブは、10月以降も同様の処遇改善を行う。看護師等については、国の方針に基づき適切に対応したい。

出戸 清克（でとき きよかつ）議員 一括質問

中心商店街の活性化

◆中央通り商店街、三日市・八日市商店街の実態は

Q 3商店街の営業件数は。

A 中央通りは33店舗、三日市は20店舗、八日市は24店舗で、計77店舗である。

Q 3商店街の空き店舗数は。

A 空き店舗として不動産事業者に賃貸のあっせんを依頼している件数は中央通りで2店舗、三日市で2店舗の計4店舗である。

Q 空き家バンクへの登録件数は。

A 空き家バンクへの登録は、これまで実績はない。

Q アーケードの撤去・改修の議論は。

A 現時点では、各商店街にはそれぞれ個別の課題があり、アーケードの取扱い方針や意向がはっきり示されていない現状である。方向性が決まったら市としても商店街や地元住民とともにしっかりと取り組んでいきたい。

◆伝統的町並み景観事業について

Q これまでの事業の評価。

A 平成21年度から現在まで13件の実績があり、いずれもこまつ町家の継承や活用にふさわしい造りとなっており、町並みの景観向上や中心商店街のにぎわいと交流の拠点として期待している。

Q 今後の取組について。

A 現在も第13期の事業募集を行っているところであり、積極的に活用していただきたい。

◆活性化事業について

Q 各商店会からの要望内容は。

A 小松商店会連盟からの商店街活性化に対する要望は、プレミアム付商品券の継続・拡充、商店街イベント事業への支援等の要望があった。

Q 市の助成制度や助成内容は。

A 要望を受け、今年10月からプレミアム率30％とした商品券を販売予定である。また商店会が利用促進のために行うイベントの開催に要する経費の一部を1団体当たり上限50万円まで支援する。

Q 担当の窓口は。

A 中心商店街の活性化に係る事業は商工労働課を窓口としているほか、商品券販売業務としての郵便局や取扱店舗関係の小松商工会議所と連携しながら実施していきたい。

吉田 寛治（よしだ かんじ）議員 一括質問

新しい小松について 若者への世代交代が必要

◆選挙の進め方 若者へのアプローチについて

Q **これからの小松を担う若者に自分ごととして選挙に関心を持ってもらうための工夫について。**

A 令和4年3月に執行された石川県知事選挙における若年層の投票率は、全体が61・8％に対し、18歳、19歳は54・6％、20歳から24歳は36・2％と、若い世代で低い状況になっている。

市では、高校での出前講座、生徒会選挙における投票箱や記載台の貸出、選挙に関するポスターやメッセージ、書道コンクールを毎年実施し若年層の投票意識を高めている。

選挙期間中は、学校へのバス巡回による期日前投票所の設置のほか、期日前投票所立会人に大学生の選任やSNSでの情報発信に取り組んでいる。今後も若者が選挙に関心を持ち、投票率向上につながるよう、期日前投票所の効率的な設置をはじめ啓発に向けた取組を検討していきたい。

◆市議会議員の定数と世代交代について

Q **若い人に小松の未来を考えてもらうために議員の定年制が必要では。**

A 議会の運営に関わる重要な事項であると考えており、議会において議論されるべきものと考えている。

Q **人口10万6千人に対して議員の数が多すぎる。議員定数見直しのため第三者委員会を設置しては。**

A これまでも市議会の議会改革調査特別委員会等において、自主的に議論いただいている。現在の定数は、平成26年6月議会にて、議員提出議案として24名から22名とされた。

◆未来都市小松SDGsの取組について

Q **環境問題の先進地では市長の強い決意で市が変わったとのこと。市長は今後どのような取組をしていくのか。**

A 多くの市民の皆さんが行っている清掃ボランティアの輪を広げていくことで、ごみのない美しい環境をつくりたいと考えてる。市民や事業者の皆さんを応援する政策に取り組んでいきたい。

川崎 順次（かわさき じゅんじ）議員 一括質問

小松の3つの魅力アップ向上に向けて！

◆小松市立高校の活性化について

Q **生徒数の減少対策は。魅力ある学校づくりにチャレンジしていく必要があるのでは。**

A 見直すべきは学校の魅力化と考え、対策としてカリキュラムの改革、大学との連携、主体的な学びの重視の3点を主に取り組んでいる。

Q **小松市で将来活躍する人材育成のため理工学コースやグローバル社会における語学コース、国際学科などの設置はどうか。**

A 地域学とキャリア教育を融合したカリキュラムを編成するほか、大学との連携で生産システム、海外とのオンライン交流を図るなど、最先端を学び模範となる方との交流を通じて専門性のほか人間性や社会性を育む授業を行っている。

Q **全国有名大学の推薦枠をとればどうか。**

A 進路実現や進路指導は、デリケートな面もあることから様々な点で確認、検討し考えていきたい。

◆市内の公園整備について

Q **公園の4つの役割（健康づくり、地域の活性化、災害対策、環境問題の改善）、魅力ある公園づくりにどう取り組んでいくのか。**

A 特色のある公園づくりを進め、観光機能の充実や防災機能の強化等も図り、利用者の満足度の高い公園を目指す。

Q **障がいのある子もない子も一緒に遊べる公園づくりは。**

A 公園の利用状況を見ながら、改修等の工事ごとに検討しており、公園の魅力アップを図っている。

◆北陸新幹線開業に向けて

Q **オール加賀会議会長として、どうイニシアチブをとっていくのか。**

A いろんな形で連携をしながら地域全体が盛り上がっていくよう努めていきたい。

Q **小松の魅力・歴史・文化財をどう磨き進めていくのか。**

A 歴史・文化を共通テーマでつなぐ等新たな価値づけを行い、付加価値を付けることで全国発信できる素材へと磨き上げていきたい。

Q **アフターコロナを見据えた全国大会の誘致は。**

A スポーツの全国大会、世界大会等も誘致しながら、交流の機会を積極的に創出していきたい。

高野 哲郎（たかの てつろう）議員 一括質問

末広「ちびっこ広場」について

◆小松の景況について

Q 新型コロナウイルスの影響や急激な円安ドル高の進行、ロシアのウクライナ侵攻によるエネルギーや食料の価格の高騰等々、小松の経済を取り巻く状況は、マイナス要因が多いと考える。経済のV字回復をどのように目指していくのか市長のご所見を伺う。

A 市民生活の下支えと地域経済活性化に向けた対策を実施するとともに、求職求人のミスマッチを解消するためIT企業等のオフィス誘致を実現し、バランスのとれた産業構造を図ることによって今の景況を乗り切り、V字回復へとつなげていきたい。

◆物価の高騰は市の発注する物品や工事にも影響すると考えるが、その対応は

A 可能な限り最新単価に入れ替え、予定価格を設定しており、契約締結後においても契約約款にいわゆるスライド条項を規定し、急激な物価変動にも対応している。

◆物価の高騰が賃金の上昇を上回っている状況にある。市民生活の下支えをお願いしたいが、市長の考えは

A 原油価格高騰の影響を大きく受ける事業者への支援やプレミアム付商品券事業による市民生活の下支えと地域経済への活性化に向けた対策を実施する。

◆小松運動公園「ちびっこ広場」について

Q 大変人気を博していた大型遊具であったが、劣化により使用中止となっていた。最近、取り壊されたようだが、これからの計画は。

A 次世代を担う子供たちの成長、発達を促す魅力ある遊具による広場を計画している。令和5年10月完成予定であるが、完成した遊具から供用できるよう検討し、今年10月下旬には一部使用できるようにしたい。

完成イメージパース

東 浩一（ひがし こういち）議員 一括質問

2050ゼロカーボンシティ・小松版MaaSの取組・大杉線、尾小屋線

◆本市の地球温暖化の計画

Q ゼロカーボンシティに向けた目標数値改定について。

A 2030年度までのCO_2排出量の削減目標は、現時点では2013年度比35％減であるが、今年度中には50％以上の削減目標に変更を検討している。

Q エコカーやV2H蓄電池などへの補助範囲拡充について。

A 先進事例を検証し、EV車あるいは周辺設備の普及に関して、令和5年度からの効果的な補助制度の導入を検討する。

◆小松版MaaSの取組

Q 対象路線沿線住民への運用に向けた協議について。

A 大杉線、尾小屋線の見直しは、松東地区を一体的に、地域住民の皆様の理解を得ながら利便性向上を目指して、新たな公共交通体系を構築する必要があり、利用状況によりバス路線として維持する区間と、代替交通として決まったルートを決まった時間に運行する予約型乗合タクシーが最適と考えており、現在、国や交通事業者などと調整を行っている。

◆農林業について

Q 農村文明創生日本塾のフォーラム開催について。

A 時勢に応じた課題、地元が抱える課題をテーマに、多様な地域資源を農林水産業従事者の発展に向け発信していくフォーラムを、本年10月に2日間、オーフ観音下西尾をメイン会場に開催する。

Q 里山活性化協議会について。

A こまつSATOYAMA協議会と、こまつフォレスト協議会が合併し、発足した。

◆日本遺産について

Q 日本遺産市内一覧マップ作成について。

A 本年、ホームページこまつ・まるごと・旅ナビの全面改修に伴い、紙ベースなども併せて検討する。

Q 誘導案内板の整備状況は。

A 日本遺産マークの掲示など新設や仕様の変更など36か所を現在までに整備している。

Q 日本遺産の成果と今後の活用。

A 認定はきっかけの一つで、地域づくり、人づくりを地域の方々と一緒に邁進していく。